

平成 21 年 5 月 1 日現在

研究種目：基盤研究（S）
 研究期間：2006～2010
 課題番号：18102002
 研究課題名（和文） 16-19 世紀、伝統都市の分節的な社会 = 空間構造に関する比較類型論的研究
 研究課題名（英文） Comparative Studies of the Segmental Socio-Spatial Structures in Traditional Cities, 1500-1900
 研究代表者
 氏名：吉田 伸之
 東京大学・大学院人文社会系研究科・教授
 研究者番号：40092374

研究分野：日本近世史

科研費の分科・細目： 文科：史学、細目：史学一般

キーワード：日本史、西洋史、建築史・意匠、都市史、比較史、社会的結合、社会=空間構造、分節構造

1. 研究計画の概要

本研究は、16 - 19 世紀における伝統都市の歴史的特質を、巨大化を遂げた諸都市の分節的な社会 = 空間構造（分節構造）ととりわけその基底にある社会的結合の存立機制に注目し、伝統都市の分節構造に関する主要な史料群の把握・収集とその共有化をはかりながら、事例間の比較類型論的把握を格段に進展させようと試みるものである。

また、伝統都市に関する主要な基礎史料群を包括的に把握し、新出史料群の調査を行うことをめざす。特に、本研究では日本近世を中心に、フランス、イギリス、中国、アメリカ合衆国などについて、16-19 世紀以来の歴史的な系譜を持つ旧伝統都市を取り上げ、それぞれの社会=空間構造を明らかにする上での史料収集に努める。

さらに本研究計画を推進する中で、国際的な研究交流を促進し、伝統都市の比較類型把握に実践的に取り組み、シンポジウムやラウンドテーブル&ワークショップなどを通じて、研究者間のネットワークを構築することを試みる。

2. 研究の進捗状況

(1) 成果物の刊行企画と出版 『シリーズ・伝統都市』全 4 巻。伊藤毅氏・吉田の編で、刊行開始は 2009 年 7 月からの予定。
 『年報都市史研究』14～16 号。各年度の研究成果を速やかに公開するため、コア・センターを実質的な基盤として編集・刊行。フランス都市史学会との研究交流の成果として、『パリと江戸 伝統都市の比較史』を企画・

編集。

- (2) 海外研究者を招聘しての研究会や、研究代表者・研究分担者（連携研究者）による海外出張で、以下の機関に所属する研究者と交流した。フランス：フランス都市史学会、フランス社会科学高等研究院日本学研究所、アメリカ合衆国：コロンビア大学、ノースカロライナ大学、中国：早稲田大学、国文学研究資料館、新華社。
- (3) 基礎史料の調査・収集を実施し、主に次のような成果を得た。江戸=東京：「順立帳」、「撰要永久禄」、「東京六大区沽券地図」、遊廓関係史料、鉄道敷設関係史料、山口：萩城下町絵図。萩歴史博物館蔵山縣家文書、飯田：城下図関係。飯田藩家中・飯田城下町関係史料群。千村平右衛門関係史料、飯田市歴史研究所所蔵史料、下伊那郡清内路村下区有文書、『滋賀県野洲市大篠原小澤家文書現状記録調査報告書』の刊行、「江戸と千葉」関係史料：小河原家文書、パリ：パリ市当局記録、国王裁判所シャトレ文書、天津：天津イギリス租界関係史料、寧波・上海・フエなどの伝統建築に関する調査資料。
- (4) 比較類型把握における方法論の深化。前近代有数の巨大都市を伝統都市という共通のカテゴリーで括り、それぞれの社会 = 空間構造の深みと細部から、相互の都市社会の構造的な特質を比較類型論的に把握するというものである。
- (5) 伝統都市研究の方法論における進展。分節構造論の検証・深化。都市イデアと都市インフラ論の提起。権力秩序からみ

る分節的な社会構造論。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

いくつかの課題を残すが、研究組織とその運営方法はほぼ的確に設定されており、以下のような点で、全般的には当初の研究目的に沿って研究はおおむね順調に進展している。

- (1) 『シリーズ伝統都市』全4巻において、伝統都市論の現状を総括し、新たな展開を試みつつある。そこでの準備過程では、のべ15回に及ぶ研究会を実施した。これらを経て、現在集約している原稿からは、本企画における、都市イデア、権力とヘゲモニー、都市インフラ、分節構造、という論点の枠組設定がきわめて的確であったことが実証された。こうして、前近代全般に、さらには世界史的レベルにおける伝統都市を典型的に把握する上であらたな手がかりや論点を多数見いだしており、今後の都市史研究に大きなインパクトを与えることは確実である。
- (2) 基礎共同研究を通じて、特に江戸=東京、山口、飯田、パリ、天津などに関する基礎史料を、新発見のものを含めて多数調査・収集し、新たな実証研究の基盤整備に大きく貢献しつつある。主な成果は以下である。
江戸=東京：「順立帳」、「撰要永久禄」（公用留、御用留）、「東京六大区沽券地図」、遊廓関係史料、鉄道敷設関係史料、山口：萩城下町絵図。萩歴史博物館蔵山縣家文書、飯田：飯田城下町関係。飯田藩家中・飯田城下町関係史料群（野原家文書、小木首家文書、野村家文書）。千村平右衛門関係史料（長野県立歴史館所蔵写真資料、飯田市歴史研究所所蔵史料、下伊那郡清内路村下区有文書、同村原家（土佐屋）文書）、近江商人関係史料：『滋賀県野洲市大篠原小澤家文書現状記録調査報告書』刊行、「江戸と千葉」関係史料：小河原家文書、パリ：パリ市当局記録、国王裁判所シャトレ文書、天津：天津イギリス租界関係史料、寧波・上海・フエなどの伝統建築に関する調査資料。
- (3) フランス、アメリカ合衆国、中国など海外の都市史研究者との間で濃密な研究交流を重ね、伝統都市論をめぐる方法・理論の深化や、伝統都市相互間の比較類型的把握の進展に向けて、その基礎となるネットワークを端的に構築した。
- (4) シンポジウムやラウンドテーブル&ワークショップ、研究例会、多数の小研究会など、基礎研究を担保する取り組みを頻繁に行い、国内研究者間の時代や専門領域を超えたネットワークを鞏固にした。また『年報都市史研究』やwebなどを含めて、成果

をひろく社会や国民に発信する方途を切り拓いてきた。

4. 今後の研究の推進方策

- (1) 今後の共通論題として「都市民衆世界と近代」と「伝統都市の比較類型」を設定し、これをテーマとするシンポジウムを開催する。その成果は『年報都市史研究』に掲載する。
- (2) 内外の研究者を招聘し、ラウンドテーブル&ワークショップを次のように開催する。「小規模伝統都市 - メジェールと飯田」、「イギリス植民地下インドの伝統都市」、「近世パリの社会構造論」、「北京の都市民衆世界と社会主義都市イデア」、「インド・マラーターの都市社会」、「近世の王朝都市・京都」、「オスマン帝国支配下のアレppo」。
- (3) 『シリーズ伝統都市』全4巻の刊行を踏まえて、その成果と課題をめぐり、執筆者間を中心に、ラウンドテーブルや、公開シンポジウムを開催する。
- (4) 基礎史料・基幹的な史料の調査・収集を継続する。収集した情報のストック方法や今後の公開方法などについて具体的に検討する。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計12件）

〔学会発表〕（計28件）

〔図書〕（計35件）

高澤紀恵『近世パリに生きる ソシアビリティと秩序』岩波書店、2008、270p

近藤和彦「カナレットの描いた二つの橋：18世紀ロンドンにおける表象の転換」近藤和彦・伊藤毅編著『江戸とロンドン』山川出版社、2007、pp.224-240

吉澤誠一郎「近代天津的廟会と民間文化」李長莉・左玉河編『近代中国と民間文化』北京：社会科学文献出版社、2007、pp.180-195

森下徹編著『武士の周縁に生きる』[身分的周縁と近世社会]7巻、吉川弘文館、2007、245p

吉田伸之編著『寺社をささえる人びと』[身分的周縁と近世社会]6巻、吉川弘文館、2007、263p

〔その他〕

ホームページ

<http://www.l.u-tokyo.ac.jp/trad3>